

あ-あ 友よ! 叫んでも 応えぬ 我が 友よ!

敦賀の町をこよなく愛した あなたの名は、増田 悟さん



1994年3月29日「プルトリウム政策の転換を求める」科学技術庁交渉での増田さん

増田 悟さんを 偲ぶ

2006年9月26日 急性心不全のため逝去。

あーあ無念! 残念! 51才の若さで。

ともに闘った日々を思うとき、

こみ上げる涙、慟哭。

安らかに、そして、あなたの意志を
引き継いでいきます。

若狭ネット大阪 久保



(交渉前に仲間と談笑する増田悟さん)

増田 悟さんを偲んで

越前市(旧今立町)山崎隆敏

人の死に対する感受性がいささか鈍くなる年齢に達したとはいえ、若い友人が逝くの見送るのはやはり切ないものです。

増田君の訃報を聞いた夜は、明け方まで眠りにつけず彼の笑顔を思い浮かべつつ彼と最初に出会った日々のことを思い出していました。

23年前の1983年5月26日、敦賀で“もんじゅ”の地元説明会が開かれました。私も全国から集った人たちと一緒に会場前で前夜から座り込んでいました。そして当日の早朝、大阪から参加していた男性が逮捕されました。主催者が救援活動を行なわなかったため、敦賀の知人や私たち市民有志は弁護士と連絡を取りつつ、接見もできない状態にある本人を励ますためにと その夜とりあえず敦

賀署の拘置所があるとおぼしき建物の後方から、ハンドマイクでしばし激励の呼びかけをしました。まもなく闇の中から呼びかけた私たちに向かって大勢の警官が署内から駆けだしてきたため、私たちは市中を逃げ回ったものです。

増田君とはそれ以前にも顔をあわせる機会があったはずだとは思いますが、なにしろ当時の彼は寡黙で目立たない存在だったので、最初に出会ったのはいつの頃のことなのかわかりません。ただ、その夜の憂いをふくんだ物静かな彼の眼差しが私の脳裏に深く焼きついています。拘置所にある見ず知らずの人のことを案じて駆けつけてくれた彼のことを「ああ、この人はずいぶん心根の柔らかな優しい人なのだ」と、彼の物静かな様子から私はどわけ印象深く思ったものです。

あのとき彼は28歳。慈愛に満ちた牛の眼のような彼の丸い眼、穏やかな表情が今も懐かしく私のまぶたに浮かびます。

合掌

増田 悟さんの死を悼んで

ヒバク反対キャンペーン 建部 暹

私が増田さんを知ったのは1991年の美浜事故で関電ホールで行われた関電追及の集会でした。

増田さんの、めがねの奥のすがすがしい眼差しはロマンチックな雰囲気だけをたたきだしていません。増田さんをはじめ地元の切実な声を聞き、反原発運動の重要性を思いました。

その後、若狭ネットの呼びかけで敦賀を初めとする福井県各地でのピラ入れ・話し合い行動や、「敦賀3・4号増設反対署名」、「もんじゅ反対署名」、MOX燃料搬入抗議、地質調査と学習会などの行動に参加させていただく中で、そのたびに増田さんとも行動を共にできました。

地質調査と学習会、毎年12月のもんじゅ行動などの思い出もあります。

また、ヒバク反対キャンペーンがとりくんだ「完全なCTBTの締結を求める国際署名」、「国はJCO臨界事故の責任を認め、住民・労働者の健康被害を補償せよ全国署名」、「長尾さんの労災認定を求める署名」などに、地元の課題が山積する中で、ご協力していただきました。増田さんをはじめ若狭ネットに結集する福井の方々の運動に対する真剣さにはいつも身の引き締まる思いでした。今改めて、かけがえのない人を失ったという思いでいっぱいです。この思いを失わず今後も反原発・ヒバクを許さない運動に取り組んでいきたいと思ひます。



どうぞ、安らかなご冥福を

チェルノブイリヒバクシャ救援関西 猪又 雅子

突然のことにて全く言葉もありません。

目に浮かぶのは、メガネの奥で大きな瞳が輝いている

或はニコニコと優しい笑顔です。

日本でもチェルノブイリを繰り返さないためにも、

彼の意志を継ぎつつ粘り強く反原発の運動を進めねばと思います。

どうぞ、安らかなご冥福をお祈りいたします。

思い出すことなど

原発の危険性を考える宝塚の会 田中章子

つい先日大阪の集会に来られた福井の方に「お久しぶりです。長いこと福井に行かなくて・・・」とご無沙汰をお詫びしたところでした。

数年前は私も2・3ヶ月に1度は福井に行き、街頭署名に立ったものでした。蟹歩きで立ち去る人にくっついてしつこく署名をお願いするとか、福井の訛りをマネするとか、1筆でも多く署名を集めるために工夫をして、深刻にやるより効果的なのでそれを楽しむことにしてやっていました。

関西から署名集めに参加する私達を、福井の方々は様ざまに趣向を凝らしてもてなしてくださいました。私なんか「温泉に行くより、もうチョット署名を集めたら・・・」と内心焦っていましたが、関西の電力消費地の私達こそしんどい思いをしなければと考えていましたが、福井の方々はホスピタリティに満ちた対応をしてくださるのでした。増田さんは私達を迎えてくださる福井の方々の中でも、

縁の下の力持ち的な存在で、多くを語らず骨身を惜しまずお世話してくださいました。

でも増田さんが時々ボソッと呟く言葉には厳しいものがありました。その思いが理解できたとはとても言えませんが、この方も内心にとっても重い気持ちを抱えて活動しておられるのだなぁと感じさせられる瞬間でした。とはいえ、私のような軽薄な者をもしょうがない仲間として受け入れる寛大さも持ち合わせておられ、独特のユーモアとアイロニー（皮肉）で応酬されることもしばしばでした。ニタリと笑う顔を思い出します。

福井にはいつもなにかしら切羽詰まった目的があって行くのですが、いつか時間に追われることなく「やっと原発止めたね。」とただおしゃべりしたり飲んだり食べたりのためだけにゆったりと福井に行きたいなぁと念願しています。

増田さんとその時を迎えることができなくなったのがとても残念です。

増田さん 安らかに

私が増田さんと出会ったのはもんじゅ公開ヒアリング(1982年)の頃でした。敦賀の仲間たちと原発を考える会を作って動いていた頃に増田さんが敦賀に帰ってこられて一緒に行動することになりました。以来20数年、一時ブランクもありましたが若狭ネットで再び行動を共にすることとなりました。1991年10月蒸気発生器の細管損傷が続く高浜2号機の運転停止を求める訴訟が大阪地裁に提訴されました。そのとき、増田さんも私も原告となり大阪地裁まで行き原告団の一員として入廷したことを思い出します。

増田さんは、1993年から「原発に反対する福井県民会議」の事務局次長に一般市民グループの代表として選任され活躍されてきました。1993年折しも敦賀原発3.4号機増設反対の声が高まった頃で、翌年には増設反対20万人県民署名が始まりました。その後のもんじゅ運転再開反対署名と続く2度の20万人県民署名運動に大きく貢献されました。私も増田さんから地図を使った戸別訪問のやり方を習い大いに役立ちました。

1994年、臨界に達したもんじゅは、翌年1995年12月ナトリウム漏れ火災事故を起こし今も停止したままです。1998年県民会議主催による県民会議・原子力安全委員会・科学技術庁・動燃の4者による公開討論会が福井県原子力センター(敦賀市)で開かれました。床ライナーに穴があくか、あかないかの白熱した論議がなされ、増田さんはこの討論会の進行係をされて、終わりのあいさつのとき、チクリと自分の意見をまじえて締めくくっておられたことが思い出されます。

全員の原告適格が認められ福井地裁に差し戻されたもんじゅ訴訟は、2002年3月地裁判決、2003年1月高裁判決、2005年5月最

若狭町(旧三方町)石地 優
高裁判決と判決は2転3転し最高裁にて住民側敗訴となりました。地裁、高裁判決の日には、増田さんとともに判決を聞きに行き、天と地の体験をしてきました。福井地裁は大雪中、原告団長の故磯辺さんの送り迎えの大役を増田さんと任せられ、団長を車で送迎しました。大雪の降りしきる中、福井地裁に向かい、なんとか無事ついたのですが、判決は敗訴、コンチクショウと思ったことが思い出されます。逆に金沢での高裁判決は勝訴、雨の中、増田さんと裁判所を出て報告集会に向かう道すがらTV局のインタビューを受けたことも思い出します。

今年から増田さんの担っていた県民会議の事務局次長の役を私が引き継ぐことになりました。長年反原発で闘ってこられ、もんじゅ訴訟の原告もされていた敦賀の方が、増田さんと生前ホームセンターで偶然会い、原発反対の取り組みが十分できないことを詫びておられたと聞きました。そんな増田さんの思いを少しでも実現できるよう努めたいと思います。

増田さん、心もとないやろうけど任せて下さい。そして、安らかに眠って下さい。



「1997年5月26日もんじゅ署名提出、対原子力委員会・科技庁交渉(署名25,884、参加37名)」

増田 悟さんを悼む

美浜町 松下照幸

増田さんとの付き合いは、私が福井市から転勤してきて敦賀市で活動を始めたころからです。「つるが反原発ますほのかい」で活動を始めて、「高速増殖炉等に反対する敦賀市民の会」(以下、市民の会)で知り合いました。

原子力発電批判がまだ灯火のようなころから、チェルノブイリ事故以降の原子力発電批判高揚期まで、活動をともしてきました。市民の会では、増田さんの臨機応変な行動力が高く評価されていました。

なかなか時間のとれない仲間に代わって、多くの作業をこなしてくれました。とてもありがたい存在でした。数年前に体を悪くしてからあまり顔を合わせることはありませんでしたが、突然の訃報に驚きました。

原子力発電所を批判する私たちのほうも、原子力発電所と共に高齢化してきました。そ

の中の最も若い有能な人を失ったのですから、私たちの思いは悲痛です。元気な体に戻って、原子力発電の最後を一緒に看取りたいと願っていたのですが、かなうことなくとても残念です。

温厚な性格で、頼まれると断れないとても優しい人でした。多くの職業を経験し、敦賀市内の劇団では、その経歴を遺憾なく発揮されていたと聞いています。有用な人を失ってしまったと悔やむのは、私たちだけではないでしょう。

出会いの後には、必ず別れがあります。増田さんとの突然の別れには、誠に残念というしかありません。まだまだ元気で、次の活動を思い描いていたことでしょう。天国の住民になってからは、私たちの至らないところを叱咤激励してください。期待しています。さようなら。



アンケート結果を発表する若狭連帯のメンバー

'93.6.2 朝日新聞

若狭連帯行動ネットがアンケート

「原発増設91%反対」

原発増設 住民投票実施を
 ネットワーク、県に申し入れ

原発反対団体で組織する若狭連帯行動ネットワークは一日、日本原電の敦賀原発3、4号機の増設に対する住民投票や関西電力の蒸気発生炉交換についての公開説明会開催などを求める申し入れ書を県に提出した。

申し入れ書では▽県は3、4号機増設を了承せず、増設を認めるかどうかについては住民投票を実施する▽フランスで問題となった圧力容器ヘッド貫通管のき裂が県内の加圧水型原発で起きていないか調査し、データを公表するよう関電と日本原電に申し入れる▽美浜3号機の蒸気発生

器交換の是非についての公開説明会開催——などを項目目を要請している。

'93.6.2 朝日新聞

優しまなざしが もう見れないなんて

藤井寺市 久保良夫

彼が、福井の言葉なまりで、共に酒を酌み交わし、脱原発社会に向け、あつく語り合った居酒屋でのあのときの顔を思い出しています。

始めて、お逢いしたときは、関西での集会の報告の後、彼をつかまえて、美浜町へ入り込んで、各戸を回って、美浜事故について訴えていきましょう!」との訴えをしました。彼は、初めての面識にもかかわらず、快く、「一緒にやりましょう」といつてくれた返事を今も忘れることができません。

1991年 2月 9日 美浜2号炉で蒸気発生器細管ギロチン破断事故

4月14日 美浜町へピラ入れ行動 原子力発電に反対する県民会議事務局次長
増田さんらと共に美浜町へはいる。

9月 7日 交流会で、「若狭ネット」を設立。

1992年 7月6日～7日 第1回もんじゅ燃料輸送反対行動参加

敦賀の会館で、情報を待つ増田さん。その後の輸送反対行動に全て参加。

1993年 3月 3日 敦賀3・4号炉建設反対で敦賀市2万世帯に新聞折り込み

5月15,16日 敦賀現地行動 ピラ入れとアンケート調査 のべ100名

1994年 2月 9日 敦賀3・4号炉 増設反対署名を展開する。

その後、武生市、敦賀市、美浜町、小浜市、福井市、越前町、河野村、鯖江市、
勝山、大野市で 約4万二千名を集める。

1995年 1月10日 敦賀3・4号炉増設反対署名21万4千名知事へ提出。

1月17日 阪神・淡路大震災

1月21日から22日 敦賀市で 原発新增設を止めよう全国交流集会

この年の、7月2日(日)、原発と地震」問題で、原子力文化振興財団から講師(村主進氏、秋野金次氏)を招いて、討論会のことも良く覚えています。「原発の耐震性について」を中心に3時間半、白熱した議論を交わしました。村主(すぐり)進氏は、原子力安全委員会(原発耐震設計指針策定時の原子力専門委員会委員)でした。私たちの鋭い質問に対して、明解に答えることができなかった村主さんは、さし棒を振り回し、声を荒げてきたとき、増田さんが、村主さんに対して、「私は、『先端恐怖症』なので、さし棒を目の前で振り回さないで下さい!」と、一括されたことを思い出します。

1995年12月8日 もんじゅでナトリウム漏洩火災事故発生

1996年 2月 もんじゅ県民署名草の根連帯が署名確認

3月～ もんじゅ署名を全県に展開。土日連続して敦賀、福井市、武生、鯖江、越前町、三国へ。

1997年12月まで 署名を続ける。約4万6千名集める。

12月25日 もんじゅ署名 21万9千名提出

2001年2月18日の大阪での「美浜事故10年をふり返り21世紀に臨む交流と討論の集い」では、増田さんは、「栗田福井県知事が、もんじゅ運転再開の方向を認めるかわりに福井空港をなどという馬鹿げたことをいう」と、知事の愚かしさを暴露されていたことも思い出されます。

彼は、人前では、しゃしゃり出て発言するというのは、苦手なのか、物静かに冷静な目で判断されている姿が印象的でした。彼が、「原発の町」敦賀の現地で公然と原発反対を表明し続けてこられたことに敬意を表したいと思っています。増田さん、安らかに眠って下さい。あなたの意志を引き継ぎ、なんとしてもがんばる覚悟です。